

雇用 企業との連携 農福連携

障がいのある人たちに向けた就農機会の拡張から、地域で必要とされる人材を育成するビジネスモデル

活動の経緯

高齢化と後継者不足のため利用されない農地が増加していることから、障がい者の就農機会を促し地域農業の担い手となれるよう、行政と農業経営体、雇用する他産業とが連携して一緒に農作業に従事する育成に取り組み、将来は地域の農業経営体が必要とする労働力として人材を確保できると考えたため。

活動の概要

農業生産法人は後継者がいない農業経営体と連携し、他産業と協同して障がい者を従事者として育成する。



毎日の出荷業務の
代替えを受委託



収穫体験の指導業務の
代替えを受委託

活動の成果、主な実績等

連携する農業経営体から季節作業を受委託し、障がい者と指導サポーターからなるチーム（3人1組）でヒマワリ油、お米を中心とした年間を通して10種類の生産に取り組みました。

農作業を効率良くし、従事者の負担を軽減する考えから、農地近くでのシェアハウスによる通勤時間の短縮、農作業工程毎の勤務体制を整えて12名の従事者による協同生産に取り組みました。

取組の結果、農業経営体との受委託及び協同生産において売上626万円を達成し、8戸の農業経営体が継続して障がい者を受け入れ、受託面積は1.0haとなった。